

「収縮性心膜炎」

下肢の浮腫、呼吸困難など心不全症状をしめす特殊な疾患として、収縮性心膜炎という病態があります。最近2名の患者さんがありましたので、ご紹介します。

患者さん1 昭和14年生 男性

平成18年1月に右胸水あり、入院治療した既往あり。ゴルフなど長時間の歩行で、両下肢の浮腫が出現する、とのことで来院された。胸部X線にて心臓の左側と後面に石灰化を伴う心臓の肥厚あり（図1）、収縮性心膜炎が疑われた。採血で心不全を示す血中BNPは、50.3pg/ml（正常は18.4以下）と上昇を認めた。肝うっ血を示す肝機能は上昇を示した。症状は比較的軽度で、日常生活に支障がないので、経過を観察することとした。

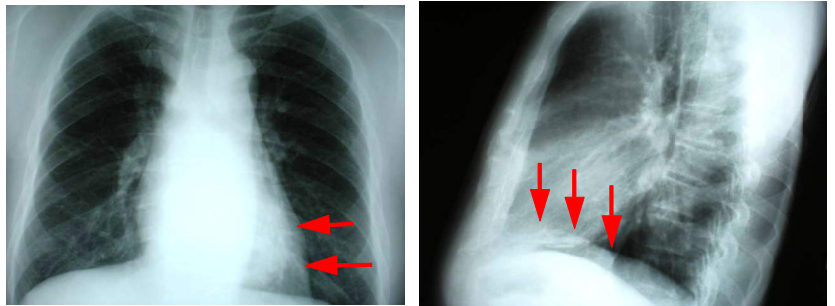


図1

患者さん2 昭和25年生 女性

健康診断で肺腫瘍を疑われて来院。胸部X線で心臓の前面に石灰化陰影あり（図2）。胸部CTで心膜に石灰化陰影を認めた（図3）。下肢の浮腫、呼吸困難など心不全症状がないので、経過を観察することとなった。

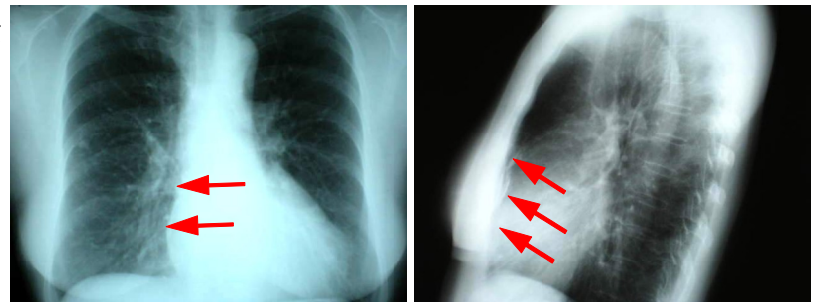


図2

収縮性心膜炎は、心臓のまわりにある心膜に炎症を発生し、心のう内に滲出液が出現する心のう炎の治療機転として心膜（心臓が入っている袋状の組織）が線維化し、長時間の間に肥厚、癒着して、心臓の動きを障害する病態であります。原因は結核、ウイルス性心膜炎などが考えられていますが、自覚症状が軽度で経過することも多く、その治療機転で、長時間の間に少しずつ心膜が心臓に癒着し、心臓全体の動きを制限して、動きにくくなる病態と考えられ、鎧心（よろいしん）とも呼ばれています。浮腫、呼吸困難などの心不全症状が顕著になれば、硬くなった心膜を切除する手術（図4）を必要とします。



図3

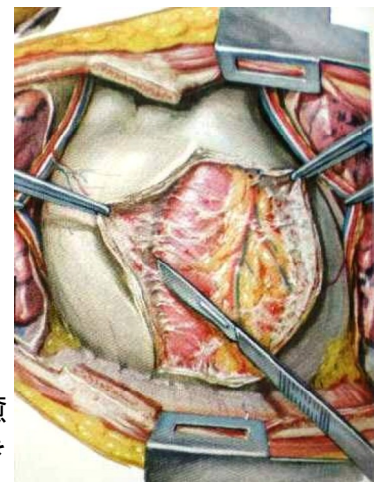


図4

年齢が進むにしたがって、両下腿の浮腫、体動時の呼吸困難などの症状をしめす方も多くなってきます。このような収縮性心膜炎という病態があることも常に頭へ入れておくことも必要です。